

「人工知能—AI」。

近年では、ニュースなどで取り上げられることも多くなりました。最近では、生成AIと呼ばれるAIを使い、会話をしたり質問をしたりすることができます。また、インターネットで検索すると自動で要約をする機能もあり、実際に利用したことがある人も多いのではないのでしょうか。使ってみると、生成AIにはたくさんの魅力や可能性があると思います。特に私が魅力を感じる場所は、新しいものを生み出すことができるという点です。例えば、ある課題があったとして、その課題について、いくら考えてもなかなかアイデアが思いつかないという経験はありませんか。このようなときに生成AIを活用すると、自分では思いつかなかったアイデアを一瞬で考え、提案してくれます。それにより、今までになかった新しいものが生まれる場合があります。このように、生成AIを使う場面は、今後もっと増えていくと思います。専門的な分野だけでなく、私たちのような素人でも手軽に使うことができるので、それによる新しい発見が爆発的に生まれるかもしれません。

しかし、生成AIは便利な反面、気をつけなければならない点があります。例えば、誤った情報を生成してしまう可能性がある点です。生成AIは知りたい情報をわかりやすく解説したり、まとめたりすることができます。たくさんの情報を処理できる一方で、その情報が正しいのかどうか、わかりません。誤った情報になってしまうのは、情報の正確さよりも文章の流れを優先してしまったり、古い情報や偏った情報から生成してしまったりするなど、様々な原因があるからです。私も以前、インターネットで検索をした際にAIの要約を見てみると、知りたい情報とは明らかに違う情報が出てきて、驚いたことがありました。その時はAIの情報がおかしいことに気づくことができましたが、もしこれが全く知らない情報だったら、間違った情報を鵜呑みにしてしまうこともあるのではないのでしょうか。AIに限らず、情報は必ず出どころなど、確認することを意識したいです。

もう一つは、著作権を侵害してしまう可能性があるという点です。生成AIでは文章や画像、音楽など、様々なものを生成し、楽しむことができます。しかし、生成したものの内容や利用方法によって、著作権侵害に当たる場合があります。何が著作権に当たるのか、素人では判断が難しい場合があります。インターネットやSNS投稿は、個人情報を手軽に発信できる一方で、著作権問題に気づきにくくなっていると思います。

私は、生成AIがさらに進歩して、これから私たちの生活の中で欠かせないものになると思っています。今述べた生成AIの注意点も、AIの進歩と共に一つずつ克服されていくと思います。しかし、生成AIの発達と共に重要なのは、私たち自身の「考える力」なのではないのでしょうか。生成AIの注意点を考えたとき、必ず起きているのは、私たちが自分で考える機会が少ないということです。情報の信ぴょう性を確かめるにしても、まずは自分で疑ってみるとか、違う見方で考えて見るとか、「考える」ことが必要です。自分で考える機会

が減るということは、私たちの思考力の低下につながる可能性があるのではないのでしょうか。例えば、私たちが誤った情報に気づきにくくなったり、生成A Iの力を借りなければ、文章を作れなくなったりするかもしれません。生成A Iに頼りすぎるのは危険だと思います。どれだけ生成A Iの技術が進歩しても、人が生み出す考えや言葉には、人にしか出せない感情や温かみが残ると私は考えています。A Iには、人の心そのものがあるわけではありません。生成A Iに情報を与えるのは人間です。どんな情報を与えるのか決めるのは私たちで、その情報が偏ったものでは、生まれたものも一部の人しか使えないもので終わってしまうのではないのでしょうか。

私にはたくさんの友人がいます。くだらない話でも、みんなで盛り上がっていると思わぬ方向に話が進み、一人では思いもしなかった話が出てきて、話は尽きません。新しいものが生み出される楽しさの基本は、こういうところにあると思います。生成A Iと私たちはもっと良い関係をつくれる。私たちの未来を共に作るパートナーとして、生成A Iの成長に期待し、注目していきたいです。そのためにも「考えること」を私は大切にしていきたいと思っています。